

J24b **全天X線監視装置MAXIとRXTE衛星によるブラックホール新星XTE J1752-223の観測**

中平聡志、山岡和貴、坂内容子、吉田篤正 (青学大理工)、根来均 (日大理工)、杉崎睦 (理研) 他  
MAXI チーム

X線新星 XTE J1752-223 はRXTE に搭載されたPCA の銀河面スキャンによって2009年10月23日に発見された天体である。その後、様々なX線衛星や電波望遠鏡などの追観測が行われ、ブラックホール候補天体として認識された。MAXIにおいてもRXTEとほぼ同時に検出がなされ、その初期観測結果をATELに投稿し (ATEL2259; Nakahira et al.), モニターを続けている。X線の光度曲線は10月30日まで徐々に増加し、一旦120mCrabで定常状態におちついた後、11月25日から再び直線的な上昇を続けており、2009年12月14日現在でおよそ300mCrabに達した。スペクトルには大きな変化は見られていないため、依然ハード状態にあると考えられる。今後状態遷移の可能性がある、目される。一方でRXTEでの1日1回のモニター観測も行われているが、太陽角制限のため、2009年12月から2010年1月中旬までは観測することができない。そのため、この時期はMAXIの独壇場となる。本講演では、XTEJ1752-223のMAXIによるモニター観測を報告し、合せてRXTEの観測結果を紹介する。特にMAXIとRXTEとの同時に観測されたデータについて、エネルギースペクトルの相互較正も行う予定である。